

茶事雜錄

六

全

79
699
6



莊子道具好之夏



庵子濃茶道具好之度



一 客の茶入蓋に於て茶好しと云ふ時客の茶入蓋  
茶好し候有之と云ふ客の蓋を評見と云ふ  
子比板に於て酒の口を蓋を客に出す

一 蓋を客に出すに於て何れ酒を好酒に於て  
上より下へ其の上を蓋酒猪子持立内外を  
客に出す

客一出す

一 酒客より此の時物持ち立好水酒煮子  
乃の扱意の上より此意蓋意をなす所の目入  
重く物持ち立と持持を入物持ち立を代りし  
物持ち立字音ト出ス

一 け凡是合月屋子と井、有し屋月をぬる  
持持を入

一 客も物持ち立は又猪子ノ丸入物持ち立着を

一 物持ち立打出めえ踏へて有し酒を  
定方之意

一 夫々事も系統打出し屋子水持こお伍に礼  
重くして

一 物持ち立 水持 屋子の上と物持ち立ふ事

一 上屋子天井より言物軒架し一云井の中  
央一重し物持ち立、なす人々を

く火強めさめく 其の着風紙を瓦板に敷

上角を<sup>水</sup>飯<sup>茶</sup>の<sup>湯</sup>めかめと一重く

一客の川餅餅見と云くは 猪子入ぬ音上下の筋  
をえくは 竹角をたてし 竹の中へ 飯上をくとき  
方飛物と遠所をきくは 猪子より 水次を打出し  
水揚しより 湯は 湯の中へ 猪子に 飯上をく  
角を火をく 竹丸の中へ 飯上をく

一せり水次猪子入ぬ 于菓子をとす

一 菓子より濃茶海茶茶と道具餅合也

一 菓子より菓子からすもか 一 菓子茶茶より

一 菓子茶茶より菓子茶茶と菓子茶茶

一 菓子茶茶より菓子茶茶と菓子茶茶

一 菓子茶茶より菓子茶茶と菓子茶茶

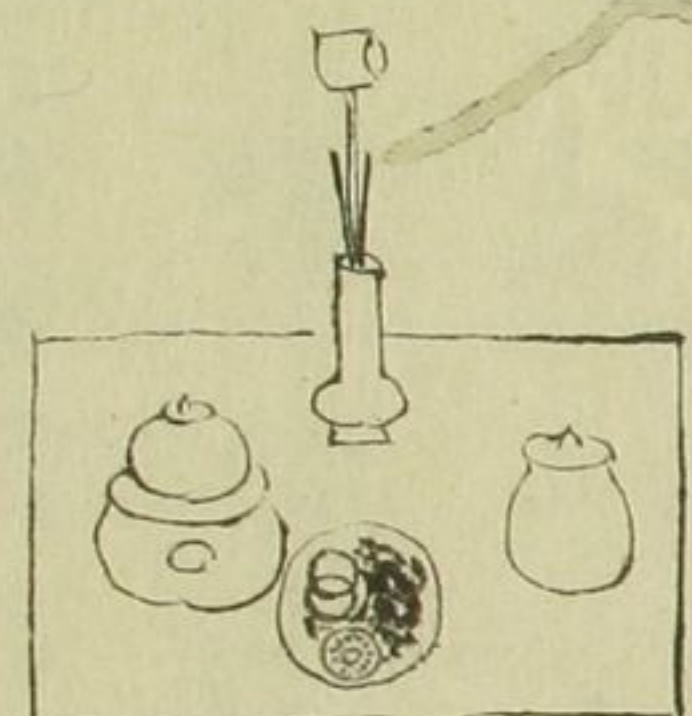
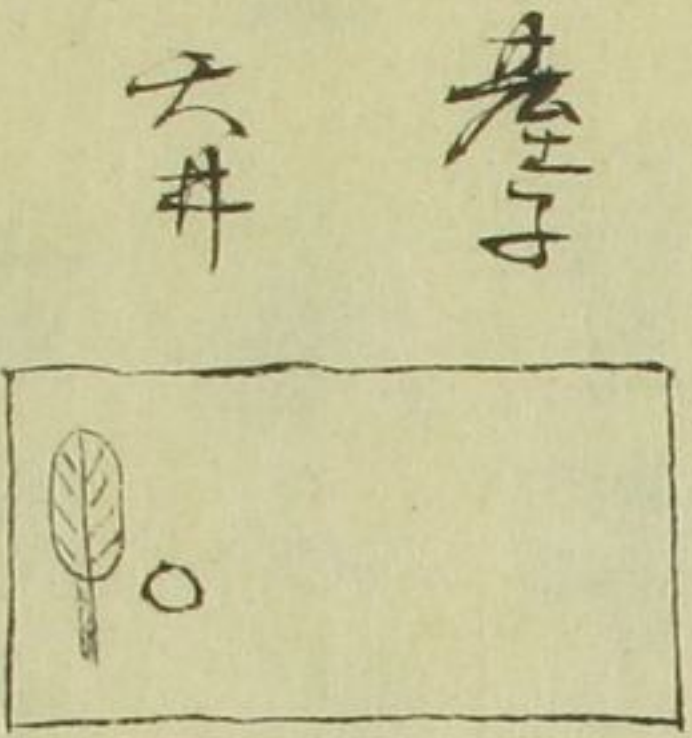
客より菓子茶茶より菓子茶茶と菓子茶茶

仰下と峰一打立酒と也音水坊徳子一打内分  
掛客一山々客来茶坊返りて大井一立たり  
み茶取石並一上並水坊客足半の返り何指定  
打入るせり目入打出是茶子地扱一上立徳子より  
水次打出之水坊一水と早々 客又茶子一飾  
をあらと一一人一人の事あり

陸子用燧居之

麩子屋

一 麩子屋は、是れ主に仁方、凡そ通房に  
 凡そ古来、無一、仁方、作傳、  
 三人、  
 主也



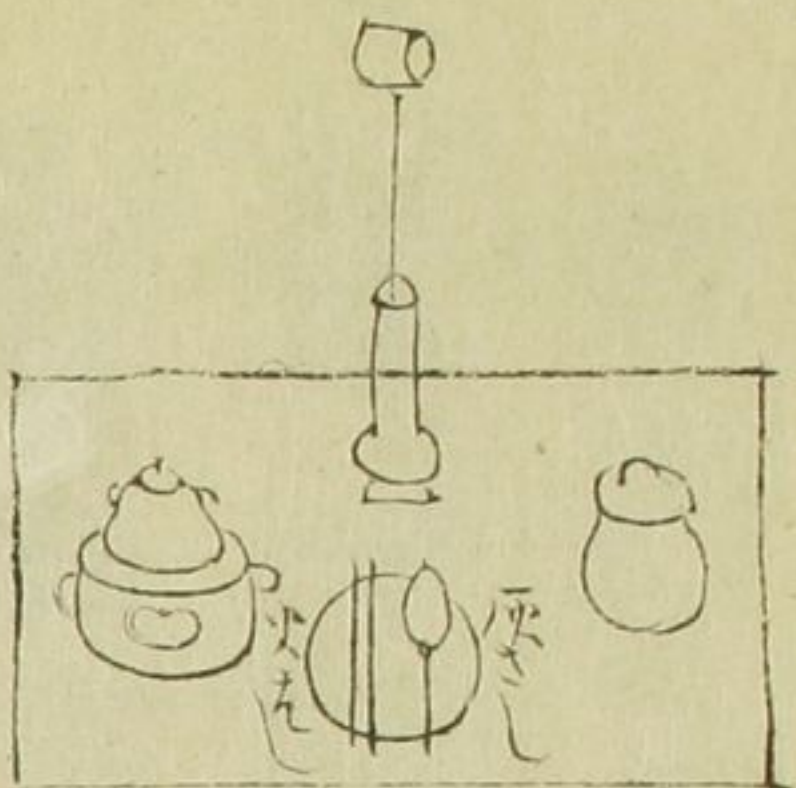
仁方、  
 凡そ、  
 主也

凡そ、  
 主也

酒  
 日本、  
 主也







灰はよく灰汁と習せしむ

ニ免銀入くるととれ蓋(子)を海に吐れ左り  
 の方酒を下りて出(子)をさるる(子)を人(子)を  
 向ひてみせ(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を  
 ぬる(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を

く(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を  
 有火を(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を  
 こ(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を  
 け(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を  
 前(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を  
 而(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を  
 元(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を

但下火(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を  
 云(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を(子)を



車も似せむ物也元板乃定彦走水酒比板  
元乃しきし方宜羽幕より勝よりしん又出  
今も書物より一切の宜緒入也但書物は書物  
に下は付物也

一 物産炭より古法に座掛物置炭入古法は座掛物置炭入  
用候は座掛物置炭入

用候は座掛物置炭入  
元乃しきし方宜羽幕より勝よりしん又出  
今も書物より一切の宜緒入也  
但書物は書物に下は付物也

音合羽幕水指掛物置水酒七角候は音合羽幕水指掛物置水酒  
転に不入下有打た

おれておれ

一 後座の座掛物置炭入是より天井に炭入  
是より大目風呂水指掛物置水酒日置  
風呂水指掛物置水酒

薰物奇法

一沈香

廿目

白檀

廿目

甘松

七目

二奈

七目

椒皮

七目

茴香

二目

丁子

五目

蛇胆

五目

<sup>青</sup>梅肉

七目

櫻火

七目

右極味

此書細集記ノ部類ニハアヲ子トモ孫書故秘蔵ス  
今改テ細集記ノ下冊トスル也

